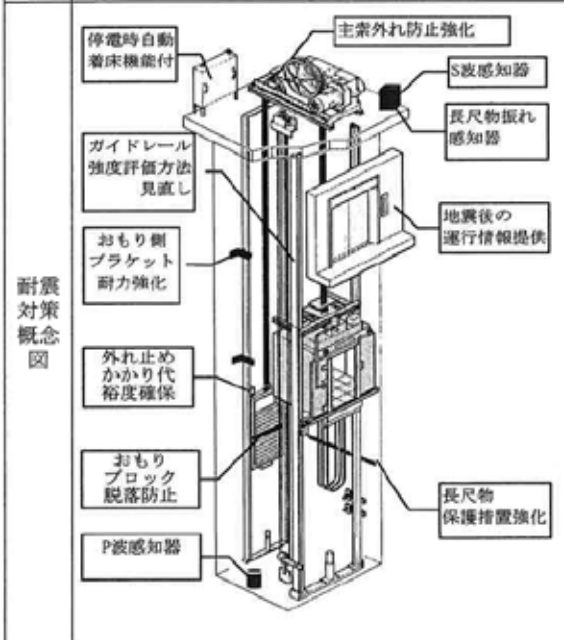


最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 14102301

性能分野	防災性
大分類	震災後の生活性能維持
中分類	継続利用可能性
技術の名称	エレベーターの機器等の耐震性強化

- ・ 震災時のエレベーターの被害を軽減するとともに、震災後のエレベーターの復旧が迅速に行えるようエレベーターの耐震クラス S または A クラスを目標に、エレベーター機械室内の機器等の固定や昇降路内ガイドレール、ブラケットを強化する。
- ・ 機器固定のためのアンカー打設のため、工事中の騒音・振動が大きい。
- ・ 工期は1台につき1週間程度必要である。
- ・ 閉じ込め防止の為に、地震感知器管制運転等により耐震対策を強化する必要がある。

表1 耐震クラス別の耐震対策項目  
(出典：(一財)日本建築設備・昇降機センター、(一社)日本エレベーター協会)

	耐震クラスA <sub>99</sub>	耐震クラスS <sub>99</sub>
運行限界耐力震度	稀に発生する地震動による震度相当	耐震クラスA <sub>99</sub> の1.5倍
耐震強化主要項目	98耐震クラスB対比の耐震強化項目(含む:オプション) ① ガイドレールの強度評価方法の見直し ② 釣合おもり側レールブラケットの耐力増し ③ おもりブロック脱落防止構造の強化 ④ 長尺物保護措置強化 ⑤ P波管制運転+S波管制運転 ⑥ 長尺物振れ管制運転 (120m超えに標準適用) ⑦ 停電時自動着床装置などの予備電源 ⑧ かご内および乗場への情報提供 ⑨ 主索外れ防止措置の強化 ⑩ 外れ止めかかり代基準の見直し	耐震クラスA <sub>99</sub> の10項目に加え ⑪ 釣合おもり側レールに連結棒取付 (ブラケットピッチ:2.5m以上のとき設置) 120m以下:コの字形(レール間揺れ阻止) 120m超え:ロの字形(長尺物揺れ阻止棒) ⑫ 長尺物保護措置の建築物の高さ区分の強化 耐震クラスA <sub>99</sub> 対比:高さ区分の1ランクUP措置
改修技術の概要		左図に加えた強化項目 